

第16回 新聞感想文 コンクール

茨城新聞社と茨城新聞を取り扱う新聞販売店で組織する茨城新聞茨城会(大和田勝征会長)が主催する「第16回新聞感想文コンクール」の入賞者52人が決まり、表彰式が明日、水戸市笠原町の茨城県開発公社ビル4階大会議室で行われる。

この紙面では全入賞者の名前と、最高賞の文部科学大臣賞、茨城県知事賞を受賞した8人の作品を掲載する(敬称略)。

コンクールは子どもたちが新聞を読み、考え、感想文を書くことで地域や社会に関心を広げ、

読解力や表現力を養うことを目的に、毎年開催している。

今回の応募総数は1415点。小学校1～3年生の部に77点、小学校4～6年生の部に273点、中学生の部に765点、高校生の部に300点の応募があった。

取り組みが顕著な学校に贈られる優秀学校賞には、つくば市立高崎中、坂東市立長須小、筑西市立関城西小、県立鉾田一高附属中が選ばれた。

最終審査会の様子(2025年11月17日、水戸市内)▶



文部科学大臣賞

小学校1～3年生の部

じまんのおいしいうち



坂東市立長須小1年

藤井 もあ

ひかりがあたってキラキラしているなすのうかのひとがニコニコしてお世話しているしんぶんのしゃしんを見ました。それは、「くろいダイヤ」といわれていた「おくくじなす」だとわかりました。ほんとうはもっともときれいなんだらうな、見てみたいなおもいでした。なすをつくるのうかのひとは、「おいしーいね。」といてたべてもらいたいとおもってつくっているそうです。

わたしのいえものうかをしています。ばんどうしでゆめいなしレタスやネギを



▲2025年9月17日付 茨城新聞

小学校4～6年生の部

横だん歩道をわたるとき



筑西市立関城西小4年

根岸 陽

この記事のように、本当に「ハンドサイン」と「アイコンタクト」で、車が止まってくれるかな。わたしは、信号のない横だん歩道で実験してみた。せが小さいから、「ハイ」と手を高くのべた。すると、本当に車が止まってくれた。わたしの「ハンドサイン」がとどいたんだ。横だん歩道を速足でわたるなら、「ありがとう。」と運転している人に、頭を下げて。ドキドキしたけど、うれしいドキドキだった。

わたしの住むいばらき県は、信号のない横だん歩道の車の停止りつは、全国ワースト4位だそう。とてもじゃないけど、だと思ふ。それが「ハンドサイン」を示した時には、九わりまで上がるという。それな



▲2025年4月15日付 茨城新聞

中学生の部

共に生きること



県立鉾田一高附属中2年

石川 花緒

「認知症」という言葉を聞いた時、多くの人は「物忘れがひどくなる」「人の助けが必要になる」といったマイナスイメージを思い浮かべるのではないだろうか。私もその一人だった。私は九十五歳の曾祖母がいる。最近はお話を何度か繰り返したり、忘れ物が増えたりすることもある。そのたびに私は「もう歳だから仕方ないね」と言ってしまう。少し距離を置いてしまっていた。だからこそ、もし曾祖母が認知症になったら、家族で支えてあげなければいけないと思っていた。そんな時、「若年性認知症」と診断された山中山のぶさんの記事を読んだ。認知症の人が

「認知症」という言葉を聞いた時、多くの人は「物忘れがひどくなる」「人の助けが必要になる」といったマイナスイメージを思い浮かべるのではないだろうか。私もその一人だった。私は九十五歳の曾祖母がいる。最近はお話を何度か繰り返したり、忘れ物が増えたりすることもある。そのたびに私は「もう歳だから仕方ないね」と言ってしまう。少し距離を置いてしまっていた。だからこそ、もし曾祖母が認知症になったら、家族で支えてあげなければいけないと思っていた。そんな時、「若年性認知症」と診断された山中山のぶさんの記事を読んだ。認知症の人が

高校生の部

悩み受け止め命を守る



岩瀬日大高2年

関口 灯優

この記事を読んで、胸の奥がぎゅっと締め付けられるような気持ちになった。中高生の自殺が最も多いという現実、数字として知っていたけれど、改めて「命の相談を受け止める人」がいるということに少しだけ救われる気がした。私は中学生の頃、学校に居場所がないと感じていた。クラスの中でうまく話せず、友達との輪に入ろうとしても空気が固まるようなあの瞬間が怖かった。誰にも相談できなくて「いなくなりたい」と思っていた夜が何度もあった。どうすればいいのかわからず、なんとなくSNSを開いた。すると、どんなSNSにも私と似たような気持ちを表している人がたくさんいた。そしてそ

この記事を読んで、胸の奥がぎゅっと締め付けられるような気持ちになった。中高生の自殺が最も多いという現実、数字として知っていたけれど、改めて「命の相談を受け止める人」がいるということに少しだけ救われる気がした。私は中学生の頃、学校に居場所がないと感じていた。クラスの中でうまく話せず、友達との輪に入ろうとしても空気が固まるようなあの瞬間が怖かった。誰にも相談できなくて「いなくなりたい」と思っていた夜が何度もあった。どうすればいいのかわからず、なんとなくSNSを開いた。すると、どんなSNSにも私と似たような気持ちを表している人がたくさんいた。そしてそ



▲2025年5月30日付 茨城新聞

「自分らしく生きたい」という強い思いが伝わってきた。私はそれまで、認知症の人を「支えてあげる存在」だと思っていたが、山中山さんを知ってからは、認知症の人にもまた誰かを支えたり、社会とつながったりできる人なんだと気づいた。「助けるだけの存在」ではなく、「誰かの支えになれる存在」なんだと感じた。

この学びから、私は「認知症だから」という考えが相手を一時的に「支えられる側」にしていたと反省した。認知症になったとしても、その人の中には変わらない思いや願望があり、自分の力だけでできることがあるという。山中山さんも診断を受けた当初は不安や孤独に苦しんだが、「だれもひとりにしない」ために居場所づくりに取り組み続けている。その姿から、認知症

とは思えない。この記事に出てくるチームのように、話を聞ける側の人になりたいと心から思った。専門家でなくても、誰かの気持ちを受けとめて、誰かの気持ちを支えてくれた。もしあのとき、その投稿たちを見つけてなかったら、私はもっと深い孤独に沈んでいたかもしれない。けれど今、こうして生きている。画面の向こうで、誰かが心から「ありがとう」を伝えたい。「たった一言が、誰かの明日を救う」の言葉を胸に、私はこれからも人の悩みを受け止められる優しさを忘れずに生きていきたい。

人々たちを見つけて、「私だけじゃない」と思えたことが今の私を支えてくれた。もしあのとき、その投稿たちを見つけてなかったら、私はもっと深い孤独に沈んでいたかもしれない。けれど今、こうして生きている。画面の向こうで、誰かが心から「ありがとう」を伝えたい。「たった一言が、誰かの明日を救う」の言葉を胸に、私はこれからも人の悩みを受け止められる優しさを忘れずに生きていきたい。

- | | | | | |
|--|---|--|---|---|
| ◇文部科学大臣賞
藤井 もあ (坂東市立長須小1年)
根岸 陽 (筑西市立関城西小4年)
石川 花緒 (県立鉾田一高附属中2年)
関口 灯優 (岩瀬日大高2年)
◇県知事賞
出野 日菜 (取手市立戸頭小2年)
保田 怜 (つくば市立竹園西小4年) | 大塚 理央 (阿見町立朝日中1年)
宮河 楓 (県立鉾田一高3年)
◇県教育長賞
上野 陽向 (筑西市立関城西小3年)
勝村 祥子 (つくば市立沼崎小5年)
小松崎 蘭 (県立鉾田一高附属中2年)
亀井 陽菜 (県立古河中等教育学校4年) | ◇茨城新聞社長賞
大塚 麻由 (阿見町立本郷小3年)
後藤 咲月 (坂東市立長須小6年)
関里 央 (県立鹿島高附属中3年)
草野 紗暖 (県立鉾田一高3年)
◇茨城会賞
栗原 里歩 (つくばみらい市立富士見丘小2年)
荒川 拓翔 (同市立谷和原小5年) | 森 嶋 明日香 (県立日立一高附属中3年)
園 亜唯彩 (県立水戸一高2年)
◇県教育研究会賞
浜名 瑠莉 (筑西市立関城西小3年)
須藤 美里 (筑西市立関城西小6年)
金谷 ふわ (水戸市立内原中3年)
斎藤 百々花 (県立古河中等教育学校5年) | ◇県新聞教育研究会賞
保坂 瑠那 (筑西市立下館小1年)
七川 翔 (茨城大付属小4年)
鈴木 駿 (県立日立一高附属中2年)
保坂 晴 (県立日立一高1年)
◇県PTA連絡協議会長賞
南 杏奈 (筑西市立関城西小3年)
古谷 梨華 (坂東市立長須小4年) |
|--|---|--|---|---|

講評

新聞を読み、現代社会を知って考える



茨城県新聞教育研究会長
北茨城市立関本小中学校長
関根 紀夫

児童生徒が新聞を読み、感想を書くことで、地域や社会に関心をもち、読解力や表現力を養うことを目的に、毎年実施している新聞感想文コンクールに、今年度も1415点の応募がありました。

全体的には、興味をもって新聞記事を読み、記事の内容を良くとらえて、自分の感じたことや考えたことが素直に書かれていました。記事から読み取ったことを、今後の生活に生

かしてこうという思いが表れている作品もあってすばらしかったです。

小学校1〜3年生の部では、記事と自分の身の回りのことを結び付けて、感じたことや考えたことを表現していました。家族との関わりがよく伝わってくる作品や、記事をしっかりと読み、自分の生活と比較して書いている作品も見られました。

小学校4〜6年生の部では、記事を読んで疑問に思ったこと

や、記事に書いてあることを確かめるために、実験したことを書いている作品が見られました。実験に基づいて書かれた内容には、説得力がありました。自分なりの根拠をもって、意見を書いている作品もあって立派でした。

中学生の部では、記事に取り上げられた人物の生き方に共感し、気付かされたことから、今後の自分の生き方についての決意を書いている作品が

あってすばらしかったです。これまでの自分の生活を見直すきっかけを、記事から得られたことを書いている作品もあり、子供たちの今後の成長が期待されます。

高校生の部では、中高生の自殺や詐欺、関税等、現代社会の問題を取り上げた記事に目を向け、感じたことや意見を書いた作品が多く見られました。世の中で起こっていることが、自分たちの命や生活に密

接に関連していることを実感している様子がうかがえました。主権者意識の高まりを感じることもでき、記事を読んで、立ち止まって考える必要性を訴える内容もあって立派でした。

新聞は、「社会を見る窓」「社会を映す鏡」などと言われることがあり、現代社会で起こっている多様な出来事について、数多く掲載されています。社会のことを良く知り、自分なりの根拠をもって判断するため

の資料として、新聞は大変有効なものだと考えます。

在籍している児童生徒の多くが「新聞感想文コンクール」に応募している学校もあり、とてもすばらしいことだと思います。児童生徒の皆さんには、今後も、新聞を読んで世の中のことを知り、より良く判断して、予測のつかない現代社会を力強く生き抜いてほしいです。

茨城県知事賞

わたしのもっているか石はアンモナイトかな



取手市立戸頭小2年
出野 日菜

なつ休みのこともしん間、アンモナイトについて図かんのように、くわしく書いてありました。わたしはか石をもっています。きよ年のなつ休みに、自分で見つけたものです。うずまきもよう、へこみがある貝のか石です。わたしは、アンモナイトだと思っています。でも、しん間にかいてあるか石には、にているせん。

わたしがもっているか石は、石のようにかたくて、手でわることができません。どうしてか石は石のようなもので、石にくっついていて、ふしぎに思いました。生きていた貝は水の中、アンモナイトの殻は、アンモナイトのか石は、はくづかんで見られたこと、アンモナイトは、ずつとむかしにいたなくなりました。アンモナイトの殻は、はくづかんで見られたこと、アンモナイトは、ずつとむかしにいたなくなりました。アンモナイトの殻は、はくづかんで見られたこと、アンモナイトは、ずつとむかしにいたなくなりました。

小学校4〜6年生の部

交通事故へのたいさく

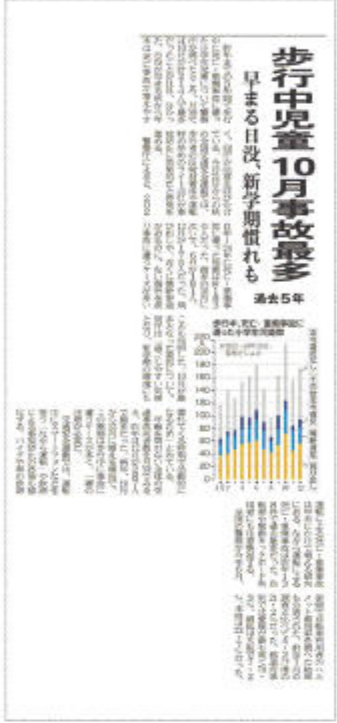


つくば市立竹園西小4年
保田 怜

金木せいがよくなる季節になった。夏までは明るかったいつもの暑い日の帰り道も、最近はずっと暗くなり、日が落ちるのが早くなってきたと感じる。

記事によると、10月は1年の中で一番歩行中児童の交通事故が多いということだ。その理由は、日没が早まるからと新学期のキャンパスにもなれてくる時期で児童が活動的になるからだと書いてあった。ぼくは、10月に事故が多いことを知らなかったのだ。おどろいた。この話を下校時や習い事の友達に話してみた。友達も知らなかったようで、みんなで気をつけようねと言った。

記事には、歩行中に死亡・重症事故にあった小学生児童数のグラフがのっていた。飛び出し・横断反、その他の法令い反で事故に



2025年9月12日付 茨城新聞

優先順位を付けるには



阿見町立朝日中1年
大塚 理央

「どれも自分には重要で、優先順位を付けるなら全部一番」

これはまさに私のことだ。

中学生になって、勉強も部活動も新しい環境に慣れることも、あれもこれもと欲張ったためか、9月までに3回も体調を崩した。今まで1年間に3回はあったけど、さすがに半年で3回は多い。やりたいことがスムーズに進まず焦っていた私に、母がある新聞記事を手渡した。優先順位を考えてみよう、と。今まででちやんとやっていると、思いながら記事を読み進めると、時間を効率よく使うための「優先順位の付け方」が書かれていた。1日が24時間では足りないと思っていた私は、う見えるのかを実験してみた。結果は反射材の有無で歩行者の見え方が全く変わった。反射材があると光って見え発見しやすくて、ないと暗いままで見つけられない。記事のとおり、反射材の着用は事故防止に役立つと思った。もう一つ気がついたことは、反射材は車からよく見える位置や色いろな方向につけるのが良いということだ。

交通事故は、事故にあった本人だけではなく、周りのみんなが悲しい思いをする。だから、交通事故にあわないために、ぼくはこれから交通ルールを守り、反射材を着用して友達と安全で楽しい学校生活を送りたい。

高校生の部

偽サイトと情報リテラシー



県立鉾田一高3年
宮河 楓

警視庁を名乗った偽サイトによる詐欺被害が茨城県で初めて確認された。これは信頼を悪用する新たな詐欺である。警察という公的機関を装う手口は、誰もが被害に遭う恐れのある身近な危険となっている。問題の偽サイトは、警視庁の公式ページに酷似していた。利用者の不安をあい、指示に従わせて個人情報やクレジットカード番号を入力させ、金銭を騙し取る仕組みだった。被害者は警告画面を信じて入力を行い、後に不正な引き出しに気づいたという。茨城県でこのような事例が確認されたのは初めてであり、今後の被害拡大が懸念される。茨城県警組織犯罪対策

「どれも自分には重要で、優先順位を付けるなら全部一番」

これはまさに私のことだ。

中学生になって、勉強も部活動も新しい環境に慣れることも、あれもこれもと欲張ったためか、9月までに3回も体調を崩した。今まで1年間に3回はあったけど、さすがに半年で3回は多い。やりたいことがスムーズに進まず焦っていた私に、母がある新聞記事を手渡した。優先順位を考えてみよう、と。今まででちやんとやっていると、思いながら記事を読み進めると、時間を効率よく使うための「優先順位の付け方」が書かれていた。1日が24時間では足りないと思っていた私は、う見えるのかを実験してみた。結果は反射材の有無で歩行者の見え方が全く変わった。反射材があると光って見え発見しやすくて、ないと暗いままで見つけられない。記事のとおり、反射材の着用は事故防止に役立つと思った。もう一つ気がついたことは、反射材は車からよく見える位置や色いろな方向につけるのが良いということだ。

交通事故は、事故にあった本人だけではなく、周りのみんなが悲しい思いをする。だから、交通事故にあわないために、ぼくはこれから交通ルールを守り、反射材を着用して友達と安全で楽しい学校生活を送りたい。



2025年5月22日付 茨城新聞



2025年7月25日付 茨城新聞

今田 浩 (水戸市立内原中3年) ◇県高校PTA連合会長賞 鉄本 結愛 (県立牛久高3年) ◇優秀賞 七川 輝 (茨城大学教育学部附属小2年) 小嶋 笑奈 (筑西市立五所小2年) 増田 和雅 (江戸川学園取手小3年) 中澤 葉月 (筑西市立下館小3年)	倉持 須坂 小 (坂東市立長須小3年) 帆 真 (筑西市立関城西小4年) 希 透 (つくば市立学園の森義務教育学校5年) 希 透 (筑西市立下館小5年) 帆 真 (つくば市立竹園西小6年) 帆 真 (つくば市立竹園東中8年) 帆 真 (鉾田市立旭中3年)	菅井 美 (県立鉾田一高附属中3年) 森田 紅 (県立古河中等教育学校3年) 森田 藍 (県立古河中等教育学校3年) 森田 花 (県立日立一高1年) 森田 彩 (県立古河中等教育学校5年) 森田 理 (県立古河中等教育学校5年) 森田 依 (県立牛久高3年) 森田 有 (県立鉾田一高3年)	主催 茨城新聞社 茨城新聞茨城会 後援 文部科学省 茨城県 茨城県教育委員会	協力 茨城県教育研究会 茨城県新聞教育研究会 茨城県学校長会 茨城県高等学校長会 茨城県PTA連絡協議会 茨城県高等学校PTA連合会 茨城県私学協会
---	---	--	--	--